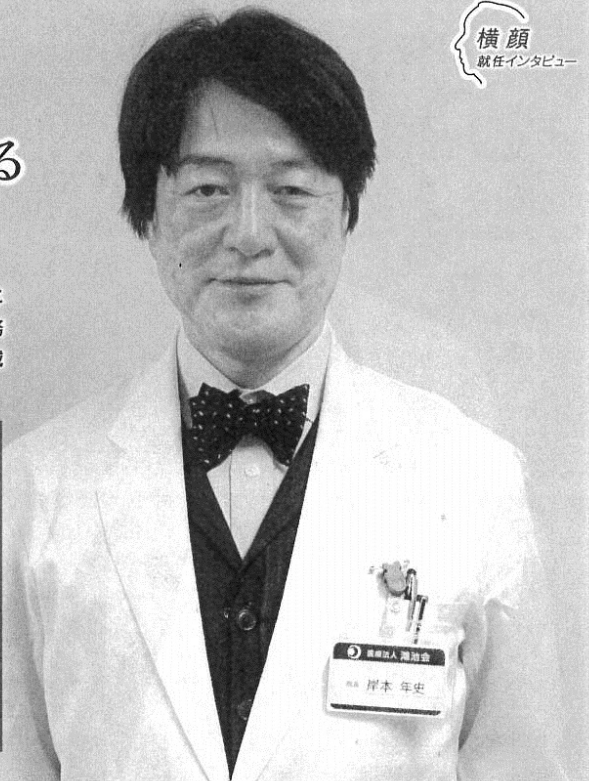


地域のニーズに応える 精神科医療を

医療法人鴻池会の中核を担う秋津鴻池病院の新任院長に
2021年4月、奈良県立医科大学精神医学講座で教授を務
めた岸本年史氏が就任した。経験と実績を生かし、地域
ニーズに応える診療を目指す。



医療法人鴻池会 秋津鴻池病院

きしもと としふみ

岸本年史 院長

1981年奈良県立医科大学医学部卒業。米カリフォルニア
大学サンフランシスコ校、奈良県立医科大学精神医学講座
教授、同大学附属病院精神医療センター長などを経て、
2021年から現職。

医療法人鴻池会 秋津鴻池病院
奈良県御所市池之内1064 ☎0745-63-0601 (代表)
<https://www.kounoikekai.com/akitsu/>

精神科医の あるべき姿とは

専門医による診療も、スター
トさせたばかりだ。「診療は
毎週土曜で、家族も一緒に
診察が可能です。先日、医
師会の先生に説明したところ、
『子どもの診療が始まる
なら紹介したい』という声
をいただきました」

新たな診療を始めること
で、地域に理解が生まれ、
より開かれた病院になるこ
とを期待する。

教授として25年

奈良県立医科大学精神医学
講座で25年教授を務め、
特に精神科救急に取り組ん
だ。「2000年から24時間
365日のスロープ救急を
実施し、自傷他害の恐れが
ある患者さんなどを引き受
けてきました」

研究は、細胞電気制御。
脳の発達が精神疾患にどのよ
うに影響するのか、脳のど
の部位に問題があると認知
症などの脳障害が起きるの
かといった研究を行ってきた。
教授退官直前の20年12
月には、研究に不可欠なシー
メンズ社の3テスラMRI
を導入するなど、臨床や研
究で多大な功績を残す。

一方で、学生や研修医へ
の教育にも力を注ぎ、「精神
科研修ハンドブック」など
の著書もある。「いまだに続
く精神障害者に対する偏見
をなくすには、医療者がま
ず正しい知識を得ることで
す。そのためにも、丁寧な
教育を心掛けてきました」

もともととは外科志望だっ
たが、自分は向いていない
と精神科の道へ。「最初は患
者さんの話を聞くのも苦手。
外科的な思考から、幻覚や
妄想も、薬で治ると簡単に
思っていました」

教授に就任した時に、入
局してきた医局員の一人が
「患者さんは面白いことを言
う」と話してきたことが印
象に残っているという。

「それまで、患者さんの話
を褒めとは思っても、『面白い』
という視点で捉えていませ
んでした。こういう人が精
神科医に向いているのだろ
うと。すでに教授でしたが、
精神科医とはどうあるべき
なのか、本当の意味での勉
強が、ここから始まったと
思います。今では患者の苦
しみや悲しみに寄り添い、
精神疾患における遺伝子や
環境との関わりについて、
さらに研究を進めている。

精神科医療とはどうある
べきなのか、長年、奈良県全
体に関わってきた経験を、今
後も生かしていくという。「秋
津鴻池病院の強みは、長い期
間、地域に根付いていること
です。患者さんの信頼を大切
に、現状に甘えることなく、
最新の治療を提供し、常に
地域のニーズに応じていく
必要があります。地域の開
業医、総合病院などと連携
し、地域全体の医療レベル
の向上を目指していきます」

地域の問題に挑む

秋津鴻池病院は、精神科
423床、内科121床。
鴻池会が運営する介護老人
保健施設などと連携し、地
域での自立した生活を支え
る医療を提供している。「内
科では地域包括ケア病床
回復期リハビリテーション
病床、療養病床を有し、地

域医療を支える役割を担っ
ています」。就任後から徐々
に、内科の稼働率が上がっ
ているという。ベッドが空
いている限り、「断らない」
姿勢を貫く。

精神科は、認知症などの
高齢者、統合失調症の患者
が多いものの、現在、地域
が求める精神科の医療ニ
ーズが変化してきているとい

う。「子どもの不登校、発達
障害、ゲーム依存、いじめ
といった問題に悩む家族が
増えてきており、サポート
できる医療体制をつくって
いきたいと思っています」

これまでのリハビリに加
えて、精神療法や認知行動
療法なども、積極的に取り
組んでいく。子どもたちを対象にした